

岡崎市民病院広報誌



岡崎市民病院 新患外来担当医一覧表 [受付時間]午前8時～11時 平成30年5月1日現在

科名	月	火	水	木	金	
総合診療科	安藤 晃禎	安藤 晃禎	安藤 晃禎	塚本 健二 前田 憲多郎	安藤 晃禎 越川 佳樹	
血液内科	新美 圭子	岩崎 / 代務		市橋 卓司	岩崎 年宏	
内分泌・糖尿病内科	渡邊 峰守	塚本 健二	代務 医師	佐藤 勝紀	倉橋 ともみ	
腎臓内科	腎臓内科 医師					
膠原病内科	午前	代務 医師		代務 医師	代務 医師	
脳神経内科	辻 裕文	高木 伸之介	小林 洋介	斎藤 勇紀	前田 憲多郎	
消化器内科	内田 博起 平松 美緒	藤田 孝義	飯塚 昭男 水野 史崇	山田 弘志	森 裕	
循環器内科	田中 寿和	三木 研	早野 真司	根岸 陽輔 午後:不整脈外来	丹羽 学	
呼吸器内科	代務 医師	竹田 菜穂子★	竹田 菜穂子★	竹田 菜穂子★	高原 紀博	
小児科	午前	小児科 医師				
	午後	加藤 徹 長井 典子 渡邊(田野) 辻 健史 須藤 祐司	鈴木 良輔 林 誠司 成瀬 和久 長井(水野)	松沢 要 近藤 勝★ 池住 洋平★ 渡邊 由香利 福本 由紀子 長井 典子	渡會 麻未 安藤 将太郎 松沢 麻衣子 辻 / 袴田★ (神経) 瀧本(3)/川崎	田野(隔週) 加藤 徹 川田 潤一 林 誠司 渡邊(辻) 神経★(隔週) 近藤 知子
外科	伴 友弥	飯塚 彬光	鈴木 章弘 乳腺外来 鈴木 祐一 石山 聡治	森 俊明	吾妻 祐也 乳腺外来 横井 一樹 (乳腺・内分泌外科) 木村 次郎	
緩和ケア	午後					
小児外科	午後		代務 医師			
呼吸器外科		親松 裕典	新美 誠次郎			
心臓血管外科	心臓 血管	湯浅 毅	保浦(1・3週)湯浅(2・4・5週)	堀内 和隆	水谷 真一	
		長谷川 雅彦	長谷川 雅彦	午後:心雑音・弁膜症外来		
脳神経外科	錦古里 武志 丹原 正夫	有馬 徹 熊谷 祐紀	脳外科 医師	有馬 徹 錦古里 武志	丹原 正夫 清水 浩之	
整形外科	山田 陽太郎 杉浦 喬也	小嶋 秀明 斎藤 雄馬	西本 圭佑 松本 明之 (脊椎 外来) 大脇 義宏	加藤 大策 山田 陽太郎 加藤 大三 (リウマチ 外来)	斎藤 雄馬 西本 圭佑	
形成外科	中村 優★	加藤 剛志	山本 将之	山本 将之	加藤 剛志	
産婦人科	今川 卓哉	千田 康敬	田口 結加里	杉田 敦子	内田 亜津紗	
眼科	代務 医師	代務 医師	岩瀬 紗代子	都築 一正	都築 一正	
耳鼻咽喉科	田中 英仁 向井田 徹 向山 宣昭	田中 英仁 代務 医師 向山 宣昭	代務 医師 向井田 徹 向山 宣昭	田中 英仁 代務 医師 向山 宣昭	田中 英仁 向井田 徹 代務 医師	
泌尿器科	代務 医師	代務 医師	泌尿器科 医師	成田 知弥 山田 伸	泌尿器科 医師	
皮膚科	代務 医師					
歯科口腔外科	大林 修文	前田 千芽 齊藤 輝海	大隅 縁里子	伊藤 洋平	大林 修文 伊藤 洋平	

担当は都合により予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。 ★:代務 █:完全予約制

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて地域医療連携室にお寄せください

岡崎市民病院 ●平日/8:30～17:00 ●土曜日/9:00～13:00
地域医療連携室 ※但し、祝日・12/29～1/3はお休みさせていただきます。※業務時間外は留守番電話になります。
 TEL 0564-66-7262 FAX 0564-25-6720

[テーマ] 慢性腎臓病の重要性

慢性腎臓病ってどんな病気?

慢性腎臓病(CKD)とは、腎機能が慢性的に低下していく症状の総称です。腎機能の低下が進むと貧血やむくみなどの症状が現れ、高血圧などの生活習慣病を発症する確率が高まります。また、それに起因して心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患を発症する危険性も増すなど、腎臓だけでなく命に関わる病気にも発展しかねません。

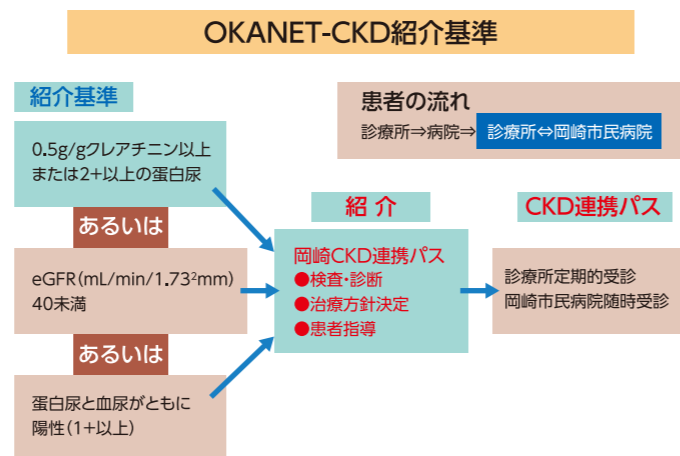
腎臓内科統括部長 朝田 啓明

正しく知ろう、防ごう、慢性腎臓病。

透析を必要とする末期腎不全患者数は、世界的にみても増加の一途をたどっており、1990年からの10年間で43万人から約2倍以上の106.5万人まで増加しました。更にその後の10年間では約2倍の200万人に増加していると報告されています。これはわが国においても同様であり、一時期の増加速度は鈍ったものの、未だに年々増加しているのが現状であり、2015年末で約32.5万人の患者が透析治療を受けていると報告されています。この内訳をみると、透析導入患者にしめる疾患別の割合では、新規導入(その年度の導入)原疾患は、90年代後半以降毎年糖尿病が第1位であり、それまで長期にわたり原疾患の第1位であった慢性糸球体腎炎は、近年の様々な治療法の発展により寛解にいたる症例も増え、以前に比べ導入患者にしめる割合が低下してきているのが現状であります。それと同時に最近増加している原疾患が透析患者の高齢化に伴い増加している腎硬化症であります。

慢性腎臓病(CKD)の病態に対する考え方の変遷で、以前は慢性糸球体腎炎から末期腎不全に進展し、最終的に透析にいたった後、心血管疾患(CVD)などを発症すると考えられていました。近年では慢性糸球体腎炎以外にも糖尿病、高血圧などを原疾患とする患者さんが、その後も慢性腎臓病(CKD)の進行過程において動脈硬化、メタボリックシンドローム、高脂血症、高尿酸血症な

どを合併するなどして末期腎不全に進展し、最終的に透析になり心血管疾患(CVD)を発症する症例や、透析になる前に心血管疾患(CVD)などを発症する症例が増加しております。特に問題となるのが、透析導入前に心血管疾患(CVD)などを併発することにより生命予後に悪影響を及ぼす症例が多いということです。



現在、慢性腎臓病(CKD)はわが国においては約1,330万人程度の患者さんが存在していると想定されており、成人の8人に1人は慢性腎臓病(CKD)であると報告されています。つまり慢性腎臓病(CKD)は糖尿病、高血圧症などと同じ国民病の一つと考えてよいわけであり、同じ割合で岡崎、幸田地区住民に割り当てると、1万人強の患者さんが慢性腎臓病(CKD)に罹患

していることが想定されるため、その患者さんを全て市民病院のみで管理するという事は難しい問題でもあります。そのため当地区では全国でも比較的早期である2008年に、現在の岡崎医師会長である小森先生たちとご相談をさせていただきCKD連携パスで患者さんの管理をすることにしました。その結果当院での緊急透析の導入は減り、年度ごとの透析導入患者も少し減ったことからするとCKD連携パスを導入した一定の効果は得られていると感じております。現在2018年1月の時点で、65施設225名の患者さんをCKD連携パスで管理させていただいており、日常診療のお忙しい中ご協力いただき深謝しております。

今後の問題点としては、CKDステージ3以降に関しては比較的早期からご紹介いただけるようにはなっているものの、CKDのステージ1、2などでの検尿異常を呈している症例であります。現在当院にご紹介いただいている患者さんの多くは、既にCKDステージの進行した患者であるため、専門医が介入しても腎機能が正常化するにはいたりません。理想を言えば、より早期から専門医が介入することで腎炎の寛解や慢性腎臓病(CKD)の進展抑制などをもたらすことができるのではないかと考えております。検尿異常が出た場合には再検査をしていただき、検尿異常の持続する症例に関しましては、たとえ偽陽性であってもご紹介をいただけますと患者さんにとっ

てもメリットも多くその後の人生に与える影響も大きいと考えられます。

またCKDのステージが進行した症例においても、まだ十分な紹介にはなっていない現状もございます。こういった患者さんの適切かつ早期での専門医への紹介も必要であります。とりわけ、高齢者の腎臓病の急性増悪は、予定入院に比し医療費も高騰し医療経済上にも悪影響を及ぼします。また、こういった患者さんで緊急導入されたかたは、導入後の1年予後も不良であることが報告されており、ステージが進行した患者さんの非専門医管理下、医療機関未受診者への積極的なアウトリーチが必要となってきます。検診機会を通じて適切な指導を行い積極的なアウトリーチ活動を行うことが、より患者さんの生命予後にも重要であることが考慮されます。

慢性腎臓病患者さんや患者さんのご家族にご相談いただき、当院をご紹介ください。

問い合わせ先

地域医療連携室

●平日/8:30~17:00 ●土曜日/9:00~13:00

TEL 0564-66-7262

FAX 0564-25-6720



消化器診療に幅広く取り組みます

消化器内科 新任医師
ふじた たかよし
藤田 孝義

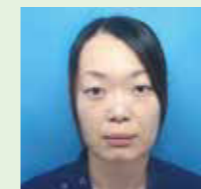
平成30年1月から消化器内科に赴任になりました藤田孝義と申します。平成6年に名古屋大学を卒業し、昨年までは、愛知県がんセンター愛知病院で、消化器がんの内視鏡診断と治療、化学療法、緩和医療に携わってきました。今後は、消化器疾患の急性期医療にも取り組んでいきたいと存じます。至らぬ点も多いかと思いますが、どうか何卒よろしくお願いいたします。



健康の一翼を
口腔から担えるよう努力致します

歯科口腔外科 新任医師
さいとう てるみ
齊藤 輝海

歯科口腔外科の齊藤輝海です。平成6年卒で岡崎市民病院には平成24年4月から3年2か月勤務し、その後大学勤務を経て1月から再赴任させて頂きました。口腔外科は口腔領域の外科処置が専門ですが、近年、口腔管理も重要な役割になっています。口腔環境を整えることで様々な疾患を予防できると言われており、この地域の方々の健康の一翼を口腔から担えるよう努力いたします。今後ともよろしくお願いたします。



症状や生活の困りごとなどは是非ご相談下さい

がん性疼痛看護認定看護師
すぎうら きょうこ
杉浦 恭子

がんによる痛みや吐き気、不眠や不安などのつらい症状を和らげることで、がんとうまにつき合い、その人らしい生活を過ごすことができるように、主治医や緩和ケアチームなどの多職種と協働しながら患者さんご家族を支援しています。院内外に向けた研修や緩和ケアイベントを通じた緩和ケア普及活動、看護外来も行っています。症状や生活の困りごとなど、是非ご相談下さい。



患者さんが安心して過ごせるようにサポートしています

がん性疼痛看護認定看護師
くわはら ちはる
桑原 千晴

がん患者さんやご家族は様々な苦痛を抱えています。この苦痛を和らげるために、緩和ケアチームの一員として多職種と共に患者さんにとって最善の方法を検討し、対応しています。また、がん看護外来において意思決定支援を行ったり、外来通院時の気がかりへの対応をして、患者さんご家族が安心して過ごせるようにサポートしています。